

# 大いなる飛躍へ

# JA上川中央



「咲き誇れ!フレミズ活動“わたしの一步”」  
作文コンクール北海道予選  
最優秀賞 水谷絵美さん(厚生地区)

2016  
NO.96

発行・上川中央農業協同組合  
愛別町本町125  
Tel(01658)6-5315  
URL <http://www.ja-kamikawa.or.jp/>  
編集・営農部営農振興課

# 3



## 第20回 JA北海道女性協議会 フレッシュミズ部会北海道交流集会開催される

1月28～29日、ホテルモントレエーデルホフ札幌で第20回 JA北海道女性協議会フレッシュミズ部会北海道交流集会が開催され、3名が参加しました。

1日目には、「咲き誇れ！フレミズ活動“わたしの一步”」作文コンクール北海道予選が開催され、JA女性部フレッシュミズ部会 水谷絵美部長が上川地区を代表し発表しました。また、『家の光』持ち寄り読書やグループワークなどもありました。

2日目には、作文コンクールの審査講評並びに表彰から始まり、講演『ケータリングサービス「美利香」の取り組みについて』や研修①「お灸で簡単セルフケア」・②「ホクレンジョイライフ事業について」が開催されました。

作文コンクールではJA女性部上川支部 辰巳部長・野口組合長も応援に駆けつけ、見事水谷部長が最優秀賞に輝き、北海道代表として全国コンクールに応募することになりました。

以下、「フレッシュミズと私」を掲載させていただきます。



### 平成27年度「咲き誇れ！フレミズ活動“わたしの一步”」 作文コンクール北海道予選 最優秀賞 「フレッシュミズと私」

JA上川中央女性部フレッシュミズ部会 水谷 絵美

「どうしても農業をやらせてくれないんですか？」と、主人の両親に2年間訴え続けた言葉です。

生まれも育ちも東京で育った私は、社会人になって愛別町出身の主人と出会い、農業の大変さなど全く知らずに、大好きな彼とただただ「一緒にいたい。」という思いだけで農家をやりたと思っていました。

当時、主人の実家は兼業農家で、専業農家としてやっていけるほどの面積もなく、外で仕事をしている義父に代わって義母が主体で働く事が多かった為、大変さをよくわかっていた義母。実家にいた頃、農作業を手伝った事もない主人が、安定した収入のある会社を辞めてまで農業をやる事に泣くほど大反対していました。それでも私は、結婚後、何度も北海道に足を運ぶうちに「やっぱり、どうしても北海道で農業がしたい！」という気持ちが強くなり、粘り強く主人の両親を説得し続け、Uターンする気も無い主人の心も動かし、ようやく2011年4月に移住、専業農家を始める事になりました。

就農して5年目になる現在は、主に米ナス・キュウリ・ネギ・トウモロコシ・米を作っています。特に米ナスの生産に力を入れており、テレビ番組「どさんこワイド」で米ナスの特集が組まれた時に生産者の代表として出演した事もあります。義母が番組内で米ナス料理を紹介し、米ナスの美味しさをアピールしました。米ナスの生産者部会は北海道内では愛別町にしかありません。一般的にあまり馴染みのない野菜の為か「食べ方がわからない」と苦手意識を持たれ、道内ではあまり出回っていません。

一年また一年と農業の経験をつんでいく中で、自分たちの手で野菜を作る事が出来る幸せや自然と向き合う生活と、東京での生活を続けていたら絶対に味わう事が出来なかった喜びや幸せを日々感じています。

そんな充実した毎日ではありますが、我が家には野菜のハウスが全部で7棟あり、夏の農繁期は毎日野菜の収穫や管理に追われ休みはほとんどありません。

実際に就農してみて農業の大変さを初めて痛感し、義母があんなにも反対した理由がわかったような気がします。

そんな時、仕事に追われる毎日で近くに話が出来る友達もおらず、ストレスが発散出来ない私を心配して、当時農協職員だった義父がフレッシュミズを紹介してくれました。ちょうどその頃は、愛別町農協と上川町農協が合併し「上川中央農協」になったばかりで、フレッシュミズも合同での活動が本

格化する時期でした。と、いっても活動内容は毎年ほとんど変わらず、青年部と合同の豊穰祈願祭・道内視察研修・収穫祭・上川地区の交流会・総会ぐらいなもの。家の仕事を黙々とこなしているだけで、家族や同じ作物を作っている人としかなかた話す機会がない毎日の中で、フレッシュミズの活動に出かける事で同じ野菜農家でも作っている作物が違う人や、酪農や畜産の農家の人と知り合う事で、色々な新しい話を聞く事が出来るのは、家族だけで仕事をしている私にとって刺激的でもあり、とても貴重な気分転換の場になっています。

今年の総会では、上川町に新しく出来たレストラン「フラテッロ・ディ・ミクニ」で、地元の食材をふんだんに使った美味しいイタリアンを楽しみながら今年度の活動について話し合い、普段以上に活発な意見交換が出来ました。プロが料理した物を食べる事も新しい発見があり、充実した総会となりました。また、年に1回開催される上川地区の交流会では、同じJA上川中央の部員以外の友人も出来ました。中には、同じ東京出身で私より何年も先に北海道に嫁いで頑張っている先輩方もいて、参考になる話を聞けたり元気をもらったりする事が出来て「フレッシュミズに入って本当に良かった」と実感しています。

フレッシュミズに入って5年目の現在、私が所属するJA上川中央フレッシュミズ部会のメンバーは皆とても仲が良いのでいつも楽しくなるのですが、積極的に活動を続けていくうちに毎年変わらない活動内容に段々と物足りなさを感じ始めてきました。

そんなある日、フレッシュミズ全体の活動とは別で、一部のフレッシュミズメンバーが集まって料理が得意な人が先生となり、自分たちで収穫したトマトを使って本格的な「トマトソース作り」や伝統的な「梅干し作り」を覚えてもらう機会がありました。それがとても楽しくて、料理があまり得意でなかった私ですが「せっかく美味しい食材に恵まれたこの土地で農業をしているのだから、皆で食材を持ち寄ってそれぞれの得意分野を活かして教え合う場を作れば、地域の食材の魅力をもっと発見出来るようになるのではないかと」考えました。他の地域のフレッシュミズの皆さんは既に取り組んでいる事だとは思いますが、フレッシュミズ部員が集まって料理教室をしたりレシピを考えたりしてみたいと思うようになり、集まって話し合いを続けるうちに「自分たちで作って楽しむだけでなく、地域の人たちにもこの楽しさを伝えたい」と思うようにもなりました。一部のメンバーだけで始めたこの小さな活動を発展させて、来年度からはフレッシュミズの活動として、まずはレシピ作り・料理教室から始めて数年後には「地域の人たちと交流出来るイベントを開催したい」という夢にまで広がっており、現在着々と計画を練っているところです。実は、愛別町は北海道内でも珍しい学校給食の無い町です。その事に魅力を感じて愛別町に引っ越しして来た人もいるくらいです。農家のお母さんたちにとっては早朝から毎日大変なお弁当作りですが「子供の喜ぶ顔が見たい」と皆さん頑張っています。私もそんなお母さんたちを見習って、フレッシュミズ活動を通して、苦手分野を克服して地元の食材を活かせる料理の腕をどんどん磨いていきたいと思っています。

フレッシュミズの副部長を2年経験した後、部長になってまだ1年目。私の地域ではまだ珍しい女性農業者として少しずつ認められるようになり、今年から一般女性では町内初の農業委員に選ばれました。農業委員に選ばれるまで全く知らなかった事なのですが、農業委員の役割の一つに「地域農業の振興を図る為の活動、食農・食育・地産地消の推進」というものがあります。せっかく選んで頂いたからには、農家になってわかった事やフレッシュミズ活動を通して得た知識を活かし、若い女性ならではの目線で地域の子供たちに食の大切さを伝える役割を担っていきたくて考えています。

農家になって、フレッシュミズに入って、東京にいた頃の私では全く想像も出来なかった経験をいっぱいしてきました。家族の協力を得て、地域の皆さんに支えられて日々成長させてもらっている恵まれた生活にとっても感謝しています。

これからも家族と支え合いながら活動の場を広げ、地域に貢献する事で、支えてくださった皆さんに恩返しをしていきたいと思っています。



## より高品質な胡瓜を出荷する!! 胡瓜栽培講習会開催される

2月16日、胡瓜生産部会員11名参加のもと胡瓜栽培講習会が開催されました。

講習会では、埼玉原種育成会の栗田氏を講師にお招きし、新品種兼備の特性や品種による低温障害・カルシウム欠乏症対策、灌水の方法と整枝方等について講習を受けました。

今年も安心安全で、より高品質な胡瓜を出荷するため参加された生産者の皆さんは真剣に聞き入っていました。



## 高品質生産及び収量増加へ… 南瓜栽培講習会開催される



1月21日、南瓜生産部会6名参加のもと南瓜栽培講習会が開催されました。

講習会では、トキタ種苗株式会社の今井氏・有限会社天心農場（中富良野町）の北川社長を講師にお招きし、昨年より作付けしています、くり將軍の定植後の肥培管理や高品質生産及び収量増加へ向けた栽培技術等について講習を受けました。

## 今後の普及動向に注目… 水稻栽培講習会開催される

2月15日、愛別町米麦生産振興協議会主催による「平成28年産に向けた水稻栽培講習会」が開催されました。

上川農業改良普及センターの鈴木専門普及員を講師に招き、昨年の反省、今年の良質米生産に向けて講習をしていただきました。

講習会の最後には、“愛別町産ゆめぴりか”と“魚沼産こしひかり”や“熊本県産森のくまさん”など全5品種の食べ比べも実施し、参加された皆様からは、食味について様々な意見がだされており、今後の普及動向が注目されます。



## 年金口座新規獲得部門第1位 上川支所金融店舗 平成27年度上川地区(上川・留萌・宗谷)年金口座獲得コンクール



平成27年4月～12月において、JA北海道信連旭川支所主催による「平成27年旭川地区JA年金口座獲得コンクール」が開催され、当JA上川支所金融店舗が新規獲得部門で1位を獲得することが出来ました。

新規獲得部門は、前年同期間中に獲得した新規受給口座数を基に進捗率を計算しており、窓口におけるお客様への声掛けを土台とした日々の推進が実り前年比212.5%となりました。

今回の結果に満足することなく、両店舗ともに今後も恒常的な年金推進強化に向けた取り組みをしていきます。



## 終始笑いのある有意義な交流会… 女性部支部合同宿泊研修開催される

2月5～6日、日本醤油工業(株)(旭川市)及び森のゆ花神楽(東神楽町)において、JA女性部支部合同宿泊研修が開催され、両支部併せて43名が参加しました。

日本醤油工業(株)では、昭和19年創業ということで会社の歴史や製造方法などのお話をしていただき、工場も見学させていただきました。今力をいれているのは、つゆ・たれ・ドレッシングということで、直営店では数多くの種類を取り扱っていました。

森のゆ花神楽での交流会では、愛別支部柴田部長からの挨拶のあと、余興として花神楽支配人による歌まねショー・ビンゴゲーム大会やじゃんけん大会を行いました。また、今年はJA若手男性職員3名の飛び入り参加で場に華(?)を添え、終始笑いのある有意義な交流会となりました。



## 平成27年度JA上川地区青年協議会・女性協議会合同事業 青年部・女性部(ミドル・フレミズ)・事務局合同研修会開催される

2月5日、旭川トーヨーホテルで青年部・女性部(ミドル・フレミズ)・事務局合同研修会が13JA(当JA9名)参加のもと開催されました。



基調講演では、株式会社農都共生総合研究所の川辺氏を講師に迎え、『地域活性化に資する、これからの地域社会リーダーとは～6次産業化・地域連携・食の地域活性化～』を演題に講演していただきました。

グループワークでは、各地域ごとにグループとなり、当グループでは《田んぼで〇〇》をテーマにし、田んぼを活用したイベントを季節ごとに企画し町おこしに役立てようと考えました。

今回の研修は、フレミズ・事務局も交えての初の試みとなりましたが、幅広い意見が飛び交い有意義な研修となりました。



## 今年も楽しかったですね!! 年金友の会 温泉湯治開催される

1月19～22日、ホテル大雪（層雲峡）で会員相互の親睦を深めると共に日頃の疲れを癒してもらうため、上川管内JA（JA道北なよろ・JA北はるか）合同による温泉湯治（総勢、約130名）が開催されました。

今回は、初めての方も数名参加し、会員37名（本所23名、支所14名）の参加となりました。

恒例の映画鑑賞【高倉健主演『ほたる』】や〇×クイズ、輪投げ大会やビンゴ大会、最近人気の出てきている『カーリンコン』というゲームなどの企画に参加し、各部屋では麻雀、花札などをして、楽しいひとときを過ごしました。

今回参加できなかった会員の皆様も、是非とも来年は一緒に行きましょう。

今回は、定期総会で皆さんにお会いできることを楽しみにしております。また、今後年金を受取りされる方につきましては、農協での受取りをしていただき、年金友の会のさまざまな行事に参加してみませんか？



## するーらいフ 穏やかな日々

かつて、これだけ陰惨な事件やニュースが連続することがあっただろうか。一瞬身を怯ませるが「またか」と覚めた自分がある。

何かが狂っていると思うが、その手立てを見出せない社会がある。誰が病んでいるのか分からない。このような時代にあって珠玉の文庫本、あべ美香著「いしゃ先生」に出会った。人は本来こうだったのだと思った。明治43年山形県西村山郡左沢町に生まれた志田周子の生涯を綴っている。彼女は食道ガンにより51歳の命で果てるまで、月山山麓の故郷の僻地医療に身を投じた。物語は東京の大学付属病院勤務の彼女へ届いた手紙から始まる。地元の村長を務める父からの手紙は、田舎への帰省を急がせるものだった。友達にも意中の男性にも、すぐに戻れる用件だと言って気軽に出かけて来たが、果たして父は無理難題の頼みを娘周子に用意していた。

小さい頃からの勉学の道を叶えてくれた父親は、無医村の悲哀を誰よりも強く感じていた。わずか23歳で父莊次郎の母は世を去った。大井沢は無医村のため、隣村からの医者が着いた時は手遅れだった。志田家は名家であったが、小学校の校長などを歴任した父は利発な娘周子を見て、早くから医者にしよとの思いがあった。学業に秀でる周子は東京女子医専を卒業し、医局勤務で腕を磨くべく奮闘している所であった。帰省しての父からの申し出に、周子は首を縦に振った。

1～2年山形で医師を務めていれば、赴任してくれる新しい医師が現れるだろうと願いがあった。東京の友人にも恋人にもその旨を伝える手紙を送った。父には恋しい人の存在などは伏せてあった。屋敷の土蔵内を改修して診療所が開かれた。20才を少し過ぎた女性医師を訪ねる患者は、ひとりとしていなかった。彼女の医師としての誇りも失せてしまいそうだった。周子はある日を期して診療所に座すのではなく、大井沢村を巡回する方法をとった。村の住民は治療費にも事欠く生活を送っていた。昔ながらの祈禱師に継る生活習慣もあった。弟が教えた、病に臥している子供の家を訪ねた。治療費のことなどで拒否をする。何度も訪ねた。自分の手に負えない患者には隣村の医院を薦めた。山深い道を歩きながら診療所を建設した目的を広めて行った。月山を仰ぐ故郷は豪雪地帯であった。

雪を漕ぎながらの往診が続いた。馴染みが薄い「箱スキー」の言葉が出て来る。重症患者の冬の移送手段で使われたとある。スキーの引き手を近在の者同志で融通し合った時代である。診療所を開いて2年を経過した頃、周子の母が旅立った。暖めている胸の想いを父に話すことはなかった。友達への荷物の中に、恋しい人への手紙を忍ばせていた。

時間の流れの中で、診療所へ足を運ぶ人が増える。医師の良心やこれまでの父の喜ぶ姿に、背を向けることが憚られるようになる。

治療を待つ人がいる。歳月は流れた。後支えの父も逝った。そして恋しい人からの最後の手紙が届けられた。これ以上待つことが許されなくなったと。ここに若い青春の甘い夢を絶ち、地域医療に専念した女性がいた。

地域の数多くの役職も背負い、ひとりの女性が生きた。昭和34年彼女は第11回保健文化賞を受賞した。壇上で彼女ははっきりと、会場で拍手を送る初恋の男性の顔を発見した。

ふたりはそういう人生だったんだと、自分達の過去を悟った。



## こんな出来事がありました



2月9日 愛別町農業青色申告会 定期総会



2月12日 愛別町農業用機械利用組合連合会 定期総会



## アルーダ旭川 オープンフェア

【同時開催】部品・副資材 展示即売会  
系統オリジナル農業機械・系統銘柄作業機展示コーナー

【日時】 3月25日（金）  
9:00～15:00

【場所】 アルーダ旭川特設会場  
ホクレン油機サービス旭川支店  
(旭川市永山2条13丁目1番28号)



※出品、購入、希望の方は3月11日までに農機センターまでお申し込みください。

## 営業日・営業時間変更のお知らせ

○資材店舗（本所・支所）・農機センター

土曜 8:30～12:30 営業

期間：平成28年3月5日～

○ホクレン愛別給油所

平日・土曜 8:00～18:30  
日曜・祝日 8:30～17:30

○ホクレン上川給油所

平日・土曜 8:00～19:00  
日曜・祝日 8:00～18:00

期間：平成28年4月1日～10月31日



第28回JA北海道大会 パネルディスカッション  
農業価値の向上をけん引する北海道農業  
若者がほしがる我が国農業  
北海道経済連合会 名誉会長 近藤 龍夫 氏



近藤 龍夫 氏

(こんどう たつお)

北海道経済連合会 名誉会長  
公益社団法人北海道観光振興機構 会長

JA北海道大会で開催したパネルディスカッションでパネリストの皆さんから提言頂きました「北海道農業とJAグループに期待すること」をシリーズで紹介します。

第1回は、近藤龍夫氏の提言を紹介します。

北海道が率先して国民への農業価値理解活動を

農業価値とは農業の存在価値的な意味合いと理解して頂きたい。

世界的には、『国土を確保して守ること』、『エネルギーを確保すること』、『農業を主とする食を守ること』、この3つが国として最低限やらなければならないこと。

国家的に食・農業を価値ある重要なことと位置付けている国がたくさんある。食・農業を大事にしなければならない。

しかし、わが国では、農業の重要性、農業価値が忘れられてきた感がする。

将来的には世界的な食料危機がささやかれ始めており、

今こそ農業の重要性の国民的な理解が必要。政治や、幼少教育の場などを通じて農業立国北海道が率先して理解活動を行っていくべき。この理解こそが正しい農業の普及につながる力にもなる。

北海道農業実現に向け国の制度づくりを

これからの農業政策において、国民に必要な基礎的な食料にあたる重要品目については、

国が一定の自給力を確保するということを前提として、確たる生産目標と、その実現のための政策・制度を定める。そして、目標達成に協力する優良な農家が安心して生活し、生産に励むことができるように守るべくところは守るなどして、生産環境を整備していく必要がある。

このような生産環境づくりの政策提言や生産活動の推進すなわち農業価値向上のけん引役として、北海道が産学官一体となって国を動かして実現

を目指すべき。

これらが実現してこれまでの猫の目のように変わる対策型の政策ではなく不動の政策となれば、国民とりわけ農業者の望むところであって、「若者が欲しがらる農業」として目指すところが明確になるので、将来に希望がもてる北海道農業が実現していくのではないかと信じている。



① 農業価値向上を牽引する北海道農業  
② 若者が欲しがらる我が国農業

行きつくところ、日本の農業は、北海道的な農業に変わっていくべき。それが、世界の常識的な農業の姿。

積極的に中央に出ていき、国の制度作りに参加する。北海道農業に近い制度をつくるようにもっていく。それには

農業者だけでなく、北海道大学にも担ってもらおう。また、例えば農業に経済的なセンスを入れるときも、経済家ではなく、農業経済は農家がやれるよう北海道大学に力になってもらう。農業経済は農家に任せておけというくらい、農業者は日本経済全体にも関わっていく力を持つべきで、農業の専業地帯である北海道から発信するのが産学連携の形である。

そろそろ日本の農業構造を変えるべき時に来ている。やはり、北海道から発信していくのが一番素直な姿であり、スタートポイントになって欲しい。

最後に一言

力強い農業が今回の大会の基本目標になっている。

そのためには生産、加工、流通、販売、それぞれがこれからの農業には特に科学的に、そして経済学的にも世界の最先端、高度化を図って日本の農業をリードする、そんな北海道農業になって頂きたい。

農林水産省より

# 事故に注意!

## 2016年春の農作業確認運動

実施期間 平成28年3月1日から5月31日まで

重点推進テーマ 「一人一人の安全意識の向上で事故防止」

毎年、約400件の農作業死亡事故が発生し続けています。現状を踏まえ、事故件数を減少させるため、事故が多発する春作業の3月～5月を農作業安全対策の重点期間となりました。一人一人が安全意識を高め事故防止に努めましょう!



家族みんなで読める

# 家の光

ほしい! 知りたい!  
情報がいっぱい!!



連載企画

- ・暮らしの困ったは王子におまかせ!
- ・漬け物日記
- ・5分でいきいき 楽しいゲーム
- ・エコーブマーク品で作る まごころ介護食
- ・日本の手仕事
- ・いいね! フレミズ
- ・今こそかみしめたい協同のことは
- ・世界の協同の仲間から

1年6回 別冊付録付き!



お申し込みはお近くのJAへ

人・JA・地域が元気

# 家の光

定価 (税込) ●普通月号 617円 ●付録月号(1・4・5・7・9月号) 906円  
●家計簿付き12月号 1,008円

JAグループ 家の光協会

〒162-8448 東京都新宿区市谷船原町11

TEL 03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net>

JAのあゆみ 2月

- 2日 留明・上川地区合同JA役員研修会
- 3日 留明・上川地区農協監事協議会定期研修会(4日)
- 4日 定例会面会議
- 4日 農用地利用改善事業実施組合長・農事組合長・生産者全体会議
- 4日 愛別地区園芸緊急農地再整備事業幹事会
- 5日 青年部・女性部(ミドル・フレックス・事務局)合同研修会(旭川市)
- 5日 JANA女性部支部合同宿泊研修(6日 東神楽町 森のゆ花神楽 晴れフェスティバルあひつ)(7日)
- 6日 愛別地区説明会
- 8日 人・農地プラン地域検討会(9日)
- 9日 愛別町農業青年会田舎会記帳講習会・定期総会
- 9日 愛別町蔬菜振興協議会役員会
- 12日 愛別町農業用機械利用組合連合会定期総会
- 15日 愛別町米麦生産振興協議会 水稲栽培講習会
- 16日 第1回臨時企画面議
- 16日 胡瓜栽培講習会
- 17日 JANA女性部上川支部役員会
- 18日 JANA女性部上川支部定期総会
- 19日 愛別町米麦生産振興協議会役員会
- 20日 地酒「ふし」を愛でる夕べ
- 22日 JANA女性部愛別支部4役員会・監査役員報酬審議会
- 23日 JANA女性部上川支部定期総会
- 24日 上川町地域活性化懇談会
- 26日 第2回臨時企画面議
- 26日 総務金融・営農経済合同委員会
- 26日 農家経済対策委員会
- 27日 決算監事監査(3月4日)
- 29日 愛別町米麦生産振興協議会定期総会

組合員のうごき

(平成28年2月19日現在)

正組合員戸数	386戸
総組合員数	2,634名
正組合員数	595名
うち団体数	34団体
准組合員数	2,035名
うち団体数	70団体

第12回定例理事会

平成28年1月27日開催

- 1 報告事項
- 1 組合員の脱退について
- 3 件の脱退について報告した。
- 2 平成28年度資産評価委員会報告について
- 1月22日開催の委員会内容を報告した。
- 3 平成28年度クミカン資金(仮)供給限度額の設定について
- クミカン運用に伴う仮設定について報告した。
- 4 固定資産の取得について
- 理事会承認に基づき固定資産の取得結果を報告した。
- 5 行政に対する要請意見書の回答について
- 面行政に対する要請書の回答内容を報告した。
- 6 要領の部改正について
- 担保評価マニュアルについて改正内容を報告した。
- 7 地域への組合交付金事業の承認について
- 地域への組合交付金事業の承認について承認された。
- 8 事業承認内容を説明し、同事業が完了したことを報告した。

第1回定例理事会

平成28年2月19日開催

- 1 報告事項
- 1 組合員の脱退について
- 5 件の脱退について報告した。
- 2 平成27年度理事に対する報告について
- 担保貸付金金について
- 包括事前承認承認に対する貸付結果を報告した。
- 3 内部監査業務活動報告について

平成27年の内部監査業務活動状況について報告した。

- 4 平成27年度の決算処理に伴う自己査定の結果について報告した。

議事

- 1 組合員の加入報告並びに組合員資格について
- 1 件の加入が承認された。
- 2 平成27年度事業決算内容について
- 平成27年度決算内容を説明し承認された。
- また、決算手当を計上した結果を次回理事会において再度承認することとした。
- 3 第8回通常総会の開催日程について
- 平成28年3月31日午前9時30分より愛別町総合センターにて開催されることが承認された。
- 4 定款並びに規程の部改正について
- 定款並びに規程の変更について承認され、第8回通常総会議案提出することとした。
- 5 平成28年度理事に対する担保貸付金の包括事前承認について
- 定款に規定されている担保貸付金の包括事前承認について承認された。
- 6 融資資産支援特定事業利用申込の認定及び利用額設定について
- 4 件の申込みに対する利用設定が承認された。
- 7 JANA役員賠償責任保険の継続契約について
- 継続契約することが承認された。
- 8 平成28年度役員報酬諮問案について
- 理事並びに監事の報酬諮問(案)について承認され、報酬審議会へ提出することとした。
- 9 平成28年度内部監査監査計画及び経営定期点検実施計画の設定について
- 内部監査室の年間監査計画及び経営定期点検の年間実施計画について承認された。
- 10 外部出資の売却について
- 1 件の外部出資について売却することが承認された。
- 11 固定資産の取得について
- 1 件の機械装置の取得について承認された。

よろしく  
お願いします



営農部営農販売課営農販売係(上川支所)  
もり けん斗  
森 建斗  
(2月1日付)

パズル? 頭の体操



タテのカギ

- 1 月でワサギがべったんべったん
- 4 100分の1は厘、1000分の1は
- 6 尺貫法の重さの単位の一つ
- 7 畑を耕すとニコロリと出でます
- 8 眼を着たり二足歩行したりする生き物
- 9 学校を巣立つ生徒を祝う行事
- 12 犬も赤けばーに当たる
- 13 法隆寺は、華厳——が建立したと伝えられています
- 15 氣を付けの姿勢から頭を下げつつ腕を折ります
- 17 タイコンやゴボウはこれの中で育ちます
- 18 世界三大珍珠の一つ

ヨコのカギ

- 1 3月3日は——の動物
- 2 見せるために物を並べること
- 3 マニキュアを塗るところ
- 4 脱穀していないイネの葉
- 5 なるとは、この模様が付いています
- 7 前人——の大記録を打ち立てた
- 8 チーターやジャガーに似た動物
- 9 普通郵便より早く着く——郵便
- 10 橋の欄干などに付いている、ネギの花の形をした飾り
- 11 貝の中で大きくなる美しい玉
- 14 朝 植木——道具——
- 15 猛獣を入れるのに通っています
- 16 日本一広い市、高山市がある県

パズル? 頭の体操



解答 A B C D  
マ ラ ソ ン